

ありが隊 新聞

2017.1.12 発行

新春、号外増刊号です!!



河本 裕美



小沼 大希



木原 亜希



馬場 花子



谷 葉花



橋本 明花



上野 真純

あけましておめでとうございます!

2016 年は大変お世話になり、ありがとうございました
2017 年もどうぞよろしくお願いいたします

写真は昨年の11月11日、
永嶺村長が初登庁された
日に撮りました!

Facebookにも
この写真を使っています!



全員 スーツで出勤するのは
やはりレアだったの...
思わずキメちゃいました。

~~斎藤~~さんだぞ?
上野

今はやりの...?

改めまして、あっぱれ! 天龍村ありが隊です。

昨年のありが隊は私を含め、4 人の新メンバーが加わり 7 人という大所帯に。

ありが隊内でも大きく変化のあった一年でした。

メンバーこそ変わりましたが、いつも村のみなさんに支えていただき「ありがたい」です、と
いう気持ちを込めて先輩隊員の名付けた「ありが隊」という名前とその気持ちをしっかりと引
き継ぎ、さらに、少しでもそれをみなさんにお返しできるように今年も一年頑張ります!

まだまだ至らぬ点もあるかとは思いますが、

こんなありが隊をこれからもよろしくお願いします

私たちが日頃どんな思いで、どんな活動をしているのか、ぜひみなさんに知っていただきたい
なと思い、今回新春特別号を出させていただきました! 目を通していただくと嬉しいです。

昨年度はこのメンバーでスタートしました!

(文: 駒井花子)

昨年7月に木下聖隊員が任期を終え、
9月には新たに2名のメンバーが加わりました!



河本雅美（まさみん）



☆なぜありが隊に？ 天龍村を選んだのか？

村名にビビビときたからです。そこから天龍村について調べていくと「信号もコンビニもない秘境感たっぷりの山暮らし。伝統野菜に霜月神楽 etc...」 ときどきわくわくする大好きワードがたくさん出てきました。実際に向方のお潔め祭りで下見に訪れてみるとおごそかでアットホームでもあるお祭りに感激し、地域の方々の結束力と温かさを肌で感じたので、天龍村地域おこし協力隊に応募いたしました。物販に行くといつも村名を褒められます。いついつまでも「天龍村」という名前が続きますように☆彡

☆今の活動内容・活動に対する想い・今後にかける想い

1, 「雑穀プロジェクト」

農業未経験で「観葉植物は枯らす専門家」と家族に言われる私は毎年雑穀の芽が出るか出ないかに一喜一憂し、種まきと収穫の時期は段取りも分からず、先の見えない世界にときどきそわそわしています。三年目にしてやっと「芽が出て万歳＼(^o^)/ 無事に収穫できて万々歳＼(^o^)/」の世界から、収穫量を気にする余裕が出てきました。村内には自分の休耕地を活用して雑穀を作っておられる方が何人かいらっしゃいます。村で畑をされている方々はさすがです！！ 面積に対しての収穫量が私たちに比べてはるかに多いのです。出来あがりの雑穀も綺麗で粒もそろっています。今までは忙しいのを理由に他の雑穀畑へ勉強に行くことを後回しにしていたましたが、土作り、種まき、畑のお手入れなど身近な師匠たちに今後はしっかり学んでいきたいと思います。

雑穀プロジェクトを通して天龍村を知ってもらおうきっかけになればと思い、今年度は月に1回、県外の方にも雑穀野良しごとに参加していただくワークショップを行いました。「みんなで雑穀野良しごと♪」と称して、野良しごとをして、大河内森林キャンプ場で雑穀スープや村のおかあさん特製のおつけものや保存食などを持ち寄ってのランチは参加者には大好評でした。みなさん帰りはおきよめの湯も堪能され、「美味しい郷土料理に、地域の方々との交流がとても楽しかった。お肌がつつるになる温泉も最高！！天龍村にまた来たい！！」というみなさんの感想がとてもうれしかったです。ご夫婦で三回参加された方もいらっしゃいました。私一人ではここまでのおもてなしはできませんでしたし、「草刈りや畑の片づけなど行ける時は手伝うで声かけてよ！」と心やさしいメンバーのおかあさん方には本当に感謝です。いつもありがとうございます。

また、「雑穀ってカラダに良いて聞けど食べ方がよく分からない」という声を聞きます。

そこで2月からは、阿南町のおどもカフェにて月4回雑穀ランチをやらせていただきます！！

2月は7日（火）、8日（水）、21日（火）、22日（水）の予定です。

年末ようやく袋詰めができた「たかきび、たかきび粉、もちきび、小豆」などの雑穀の販売もスタートします。秦プロパンさん、満島ホテルにて販売予定です。ぜひご笑味くださいな。

2, 「自力整体」

～自分で自分のからだをほぐします。健康の自給自足をめざしてますます元気な天龍村に！！～という想いで活動させていただいています。村内で自力整体をはじめて1年3カ月が過ぎました。

「葉の量が減ったのよ」、「痛みがなくなったよ」、「畑仕事がスイスイできるようになった」、「はじめの2,3回はキツく感じたけれど、自力整体終わった後は本当にカラダが楽になるのが分かるわ～」etc...

うれしい感想をたくさんいただきました。7,8年間湿疹や手荒れなどで毎日痛くて痒くて辛い毎日を過ごした経験があり、「生き心地の良い毎日を♪」という想いが強くあります。カラダも家や車と同じでお手入れすればするほど生き心地・住み心地・乗り心地がよくなると信じています。参加者の方々には逆に健康について教わることもたくさんあります。私もこれからますます精進して参ります。よろしく願いいたします！！

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。簡単に自己紹介をさせていただきます。

名前は小柳大祐と申します。あだ名はギーニョ・大ちゃんです。出身は神奈川県横浜で、天龍村に引越すまで実家に住んでおり、玉川大学文学部に通う学生でした。今年で24歳となり、今現在は■■■■の■■■■■■■■■■に住んでいます。

趣味は読書やスポーツ観戦、スキー、写真撮影です。アルペンスキーを中学1年生から続けています。サッカー観戦が好きで横浜・F・マリノスとレアル・マドリードを応援しています。

天龍村ありが隊に入ったきっかけは、イモ兄こと村澤雄大さんとタイ王国で出会い、その繋がりで天龍村生活体験ツアー「ななめに暮らす数日。」に参加した事です。

その後は大学で観光学の一環としての地域振興や民俗学・宗教学等を勉強し、卒業後は地域おこし協力隊として天龍村に住むことを決めました。したがって、なぜ天龍村を選んだかと問われればイモ兄がいたからです(笑)

ななめに暮らす数日。で野竹正孝さん宅、吉田勇次さん宅にホームステイし、村の方々と交流できたことも天龍村に決めたことの大きな理由の1つです。

2016年を振り返って見るとたくさんの出来事がありました。個人的にはデザインを仕事にしたいという意思を固め、動き出すことができました。多くのデザイナーさんと交流し多くを学ぶこともできました。

他にも国際基督教大学の皆様と良い関係を築けたこと、CM大賞・ハナコの知らない世界の撮影や編集など、たくさんの協力を得ることで達成することができました。

私生活では、消防団員になり操法大会や普段の訓練を経験することができました。そして満嶋神社の秋祭りで掛け太鼓を叩くことができたことが何より嬉しかったです。楽しい1年間を過ごせました。

- ① 自己紹介
- ② なぜ天龍村ありが隊に入ったか
- ③ 2016年はどうだった?
- ④ 今の活動内容は?
- ⑤ 活動・村への想いは?
- ⑥ 2017年の意気込み

今現在の活動はデザイン分野と動画制作、写真撮影等を中心にやっています。動画制作や写真撮影は昨年のCM大賞で感動賞を頂けたこともあり、自分の中で納得のいく仕事ができていると感じています。が、やはり本来はデザインの分野で、グラフィックデザインを仕事にしたいと考えています。なかなか1人では難しく、独学での活動なので自分が今進んでいる方向が正しいのかもわからない、霧の中を進むような感覚ですが、同時に形作るということの面白さを味わいながら楽しく活動できているとも感じています。

あくまでも私個人の考え方ではありますが、私は地域おこし協力隊という制度を利用して、地域で生活するための活動とそれが与える影響と村へのメリットは何かを考えています。個人的に天龍村、もっと言えば下伊那地区でデザイン分野の仕事がもっと活躍できるのではないかと考えております。そのためにもっと勉強し、自身のスタイルを確立していきたいと思っています。

ただ、一人では限界があるとも感じています。なんとか天龍村の内外で幅広く繋がりを作り、今後のキャリアに結びつけていくことが大事だと考えています。それが村にとってもプラスであると良いですね。

2017年は「形にする」年にしたいと思っています。大軒きのアメリカのテレビ番組で「プロジェクト・ランウェイ」というファッションデザインの番組があります。そこに出てくるティム・ガンというファッションディレクターがいう名台詞が「Make It Work!」(形にしよう)です。番組は短い時間で与えられたテーマに沿った洋服を完成させるという内容で、製作に行き詰まる出演者へこのセリフをかけ応援しているのが印象的です。洋服とグラフィックは違う分野ですが、アイデアを具現化・可視化することに關しては同じです。彼らの姿を見習い、納得できる物を完成させる年にしたいです。



2017年も
よりしくお願いします。

あけましておめでとうございます！！柏原亜希です！昨年は沢山の
人に大変お世話になりました！今年もいろんな事に挑戦しつつ、
活動していきたいと思います。宜しくお願いします！！



・自己紹介

知ってくれている人もいると思いますが、“あなたはどんな子なの？”と知らない人もいっぱいいらっしゃると思うので、かるーく自己紹介させて下さい！！

○実家→広島県尾道市の【因島】と言う島です。人口は25,000人程で、車で1.5～2時間程あれば外周を周り終える位の小さめのサイズの場所です。名産は八朔（柑橘類）で、観光名所では因島村上水軍の居城だった水軍城や、本因坊周策にゆかりのある本因坊周策囲碁記念館をはじめ、多くのスポットがあります。

○性格&年齢→周囲の人からは明るく、人懐こい子と言われます。天然だよね、と言われることもありますが、そんなことはないはず！。。 11月で25歳になりました！！

○前職は？→大阪の商社でOLをしていました。

○天龍に来る前はここにいた！→広島県（高校まで）→愛媛県（大学時代4年間）→大阪府（大学卒業後1年間）

○今はどこに住んでいる？→■■■■■に住んでいます。



・なぜ協力隊になったの？

人と密に関われる仕事に興味があったからです。前職では毎日がひたすら事務作業と電話対応のみで、社外の人と対面して話す機会がありませんでした。仮に社外で会ったとしても声もかけられない。そんなうわべだけの生活ではなく、人と直接会って、話して、みんなで一緒に泣いたり笑ったり出来るような仕事をしたいな。“協力隊”なら人と密に関わりながら仕事出来るのでは？と感じたので協力隊に応募しようと思いました。



・なぜ天龍村にしたの？

各地の協力隊の募集を統括しているサイトで天龍村の記事を見つけた時、天龍だけ他の町村と印象が違うと感じました。天龍の記事からはとても温かそうな、おもしろそうな雰囲気が伝わってきて応募したいと思いました。面接の前日にありが隊の先輩方や役場の担当者さん、村の方々など沢山のひととご飯会を開いてもらいました。その中で村の事やありが隊の事を詳しく教えてもらいました。先輩方にどんな仕事をしているか聞くと、それぞれの隊員が当時やっていた仕事内容を細かく教えてくれたのですが、その時の先輩方の話している姿を見て“なんてキラキラした顔で話すのだろう！自分の仕事に対してとてもやりがいや誇りを持って取り組んでいる。私もこの人達と、この村の協力隊をやってみたい！！”と感じて天龍村に決めました。



・昨年1年間の振り返り & 活動や村に対しての思いは？

協力隊としての任期は3年ですが、天龍村に来て1月でちょうど任期の半分の1年半が過ぎました。最初の頃は知らなかった地域や人、文化や行事などに沢山触れることで、住んでいて楽しく、とても暖かい村だなと思うようになりました。様々な活動を通して少しずつ好きな気持ちが増していつかこの頃。自分が感じている魅力大切にしながら、様々な方法で村内外に発信していき、1人でも多くの人の心に天龍村の魅力が残るような活動をしていきたいと思っています。



・現在の活動内容と今後にかける思いは？？？

2016年は主に、村花【山ゆり】の手入れ&普及、村内に有り余っている【放置ゆず】の活用方法の探索&村内外へのPR、人と人を繋ぐ【イベント】の企画&開催などを行ってきました。どの活動もそれぞれに思い入れがあるのですが、2017年は特に【放置ゆず】のプロジェクトに力を入れていきたいと思っています。昨年のデータをまとめたり、関わってくれている人との連携を高めながら、より良い方向に進んでいけるように頑張ります！



＼あけましておめでとうございます／
 新年最初はこの場をお借りして振り返りと、私たちの
 考えや思いをもう一度書かせて頂けたらと思います。
 2017年どうぞよろしく願いたします!!

ふくもと はるか
福本 明花

出身:東京都府中市
 前職:武蔵野大学環境学部4年
 すきな食べ物:たまご
 すきな景色:お宮からのまちの景色

生年月日:1994.8.13 (22さい)
 おうち:■■■■■■■■■■
 すきなこと:食べることお話すること笑うこと
 モットー:「いきいき生きる」

あっぱれ!天龍村ありが隊になったきっかけ

天龍村には大学教授の紹介で来村したのが初めて
 でした。初めての2泊3日。出会う人出会う人が本
 当に優しくあったかく接してくださり大好きな場所
 になりました。また行きたいまた会いたいと思う気
 持ちは月1回の来村へ、そして「天龍村に暮らした
 い」という思いに変わっていきました。たくさんの
 人と関わりながら、地域のために動くことのできる
 あっぱれ!天龍村ありが隊の一員に入りました。

こんな活動しています。しました。したい!

- ・バケツの穴うめうめプロジェクト
 - ・村にあるものを村内で回す仕組みづくり
 - ・商店街活性化
 - ・空き家のリノベーション活用
- ・つなぎつなぎプロジェクト
 - ・ひとの集まる場所づくり
 (満島ホテルプロジェクト)
 - ・都会と田舎をつなぐ
 - ・大学インターンの受け入れ
- ・ななめに暮らす数日
- ・ふるさとCM大賞
- ・侍おるんじゃプロジェクト
- ・まめ部
- ・まちあるき
- ・その他いろんなイベント

一年間を振り返って

9月に就任してあっという間に4ヵ月が経ちました。
 初めてのお仕事はCM大賞撮影ご協力のおねがいまわ
 りとあいさつまわりをさせていただきました。ななめ
 に暮らす数日やお祭りの参加、満島ホテルのお店番・
 まちあるきをして、これからどうしよう・これやって
 いこうと考えて、、、2016年おわっていきました。

毎月通っていた天龍村についてお引越しをした2016
 年。毎日が驚きと発見の連続で楽しくってうれしくっ
 て学ぶことばかりです。いきいき生きてる人がたくさ
 んいる天龍村に暮らせて本当に幸せです!たくさんの
 ことを教えていただき、見守り支えて下さり本当にあ
 りがとうございます。

活動への思い、村への思い

「村がずっと村でありつづけるようになにかできるこ
 とをしたい」

そう思ったときの私の今できることは、

- ・大好きな天龍村の良さを伝えて天龍村ファンをつく
 ること
- ・天龍村らしさの再認識
- ・天龍村と外部をつなぐこと
- ・天龍村の地域経済をよくすること
- ・天龍村の空き家活動

楽しんで活動している様子を見せていくことがいまの
 私のできることかなと思っています。

地域のためになる活動をしつつ、私自身も任期後も天
 龍村で暮らしていきたいと思っています。

2017年今後にかける思い

2017年は学生のころから続けていた「漏れバケツ調査」の研究結果をいかした商店街での活動ができた
 らと考えています。そして2017年度から大学生のインターン事業を行い、何年後も続く仕組みづくりや外
 部を巻き込み活動するメリットを村へ流せたらと思っています。

あとは満島ホテル等での人の集まる場所づくりを中心に活動していきます!

個人的には、「段取り八分」を意識して落ち着いた行動ができるよう頑張ります。疑問に思う心を持っ
 て村の方が活動できないかゆいところを少しでも何かできたらと思っています。

そしてもっともっと村の知らない場所に行き新たな魅力を知って発信していきたいです。

今年も一年よろしくお願いします！

上野 真純 (うえの ますみ)

「自己紹介」

明けましておめでとうございます。私は、昨年の11月から地域おこし協力隊として活動を始めました。出身は神奈川県厚木市です。年齢は43歳で■■■■に住んでいます。

「なぜ地域おこし協力隊になったのか。」

一昨年、仕事を変えたいと思いながらも一人で行動を起こすことに抵抗を感じながら日々を過ごしていました。そんな折、インターネットでいろいろと検索をしていた時に天龍村のホームページが目にとまりました。そこでは、地域おこし協力隊が村民との繋がりを大切にしながら地域に貢献しようと活動する写真がありました。その写真を見て私もこの場所で一緒に活動したい思いになり、地域おこし協力隊に応募してなることができました。

「なぜ天龍村を選んだのか。」

ホームページの写真を見て、村のことをいろいろと調べました。天龍村は長野県内で一番南にあり、気候が穏やかであるということ。「ていざなす」「ゆず」「お茶」「ゆべし」などの特産品があること。珍しい「ブッポウソウ」という鳥が来るということ。地区ごとに祭りがあること。そして、長野県内で高齢化率が一番高いことなど。これらの情報全てに興味を持ち、天龍村を選びました。

「活動に対する想い。」

地域おこし協力隊として活動できるのは、最大3年です。この期間内に村民の想いを受け止め、自分の想いを伝え、共に望ましい状況になるよう何度も話し合いたいと思っています。そして、村民の方々と共通理解をしたうえで様々なことに挑戦し、体験したいと考えています。また、任期後も天龍村で生活し続けたいので、活動できる3年間で生活するために必要なお金を定期的に稼ぐ礎を試行錯誤しながら築きたいと考えています。いろいろな知恵を貸していただけたら嬉しいです。

「2017年の決意。」

天龍村で生活を始めてまだ2ヶ月余りなので、正直、方言や村民の方々の名前はおろか、場所もしっかり把握していません。なので、今年も引き続き村を巡回しながら、人や場所をしっかりと覚えていきたいと思っています。「食」に関することに興味があるので、話を伺いつつ、この村に何が必要であるか考え、少しずつ形にしていきたいと思っています。暖かく見守りながら接していただけたら幸いです。

本年もよろしくお願いします。

昨年の11月、坂部地区の太田の火田でヤツガシラを収穫したときの1枚。

